

# 私見創見 Thursday

皆さんは『あお』といえは  
何を想像するだろう。「空」  
「海」「眼」の色など、人そ  
れぞれ想像するものは異な  
る。考えてみると野菜や果物

名前が知らなくとも「あお。  
あの、あおの人ね」と呼ばれ  
て15年がたった。私は『あお』  
という色彩に特別な思いを寄  
せ、これまで制作に取り組ん  
できた。

など手に取ることができるも  
のにはあまりみられず逆に  
空などじかに触れられないも  
のに多い印象である。  
そうした深遠な対象を視覚  
的に表現するに当たって、人  
々は実際に手に取ることで可  
能な鉱物や植物などを原料に  
工夫を重ねて『あお』の顔料  
を得ようと追求してきた。フ  
エルメールの絵画に使われて  
いることで有名な「ウルトラ  
マリンプル」は、非常に貴  
重な鉱石「ラピスラズリ」を  
原料とし、17世紀には金よ  
りも貴重であったといわれ、  
「天空の破片」とも呼ばれて  
いたという。

日本では「青」「蒼」「碧」という三つの言葉で表され  
る。東洋では、伝統的な光の  
3原色のいわゆる青よりもや  
や長波長域の光までも青と呼  
称することがあり、緑と青の

## 東北一人旅から15年

# あおの人、あおに導かれて



佐貫 巧

八戸学院大  
短期大学部准教授

さぬき・たくみ  
1982年、静岡市生まれ。  
多摩美大卒、東京芸大  
大学院修了。2013年から現  
職。14年より八戸圏域で  
現代芸術教室「アートイ  
ズ」を主宰し、アートを通  
して少しでも生きやすい  
世の中をつくる活動をし  
ている。おいらせ町在住。

混同が見られる。

そもそも『あお』に対する  
イメージは日本と西洋とでは  
異なる。そこには、文化の基  
盤となる自然環境や風土の相  
違をうかがうこともできるだ  
ろう。例えば空をとっても日  
本の空はくすんだ水色に近い

『あお』なのに対し、地中海  
地方など空気の乾いた国の空  
は、とても鮮やかな『あお』  
として目に映る。スペインか  
ら来た留学生が「日本の空は  
白いね」と言っていたのが思

い出される。

さかのぼること2006  
年、美大生の青年は自分の表  
現したい『あお』を求めて旅  
に出ることになった。イタリ  
アのカプリ島「青の洞窟」やモ  
ロッコの青い街「シャウエン」  
など、世界には美しい『あお』  
で人々を魅了する景色があま  
たあるが、まずは日本の『あ  
お』を知るべく向かった先は  
青森県白神山地にある秘境

「青池」だった。  
夏休みに「青春18切符」と  
分厚い時刻表を片手に、上野  
駅から北へ北へ向かった。4  
泊5日の東北一人旅ルート  
は、上野→宇都宮→黒磯→新  
白河→福島→白石→仙台→

ノ関→北上→横手→盛岡→好  
摩→大館→弘前→青森→弘前  
→十二湖→東能代→秋田→酒  
田→新庄→羽前千歳→山寺→  
山形→福島→新白河→黒磯→  
宇都宮→上野といった具合  
だ。なぜ、青森に行ったのに  
八戸を通らなかつたのか。そ  
れは、当時、JRの普通列車  
が盛岡から八戸までつなが  
ていなかったからだと後から  
気づいた。

出発して3日目、弘前に到  
着し、向かった先は吉井酒造  
煉瓦倉庫（現・弘前れんが倉  
庫美術館）で開催していた「奈  
良美智+graf+Atto  
Z」展。次にオープンしたて  
の青森県立美術館へ。シャガ  
ール「アレコ」とアメリカ亡  
命時代という企画展が開催  
されていた。圧倒的なスケ  
ールの作品に度肝を抜かれた感  
覚は、今でも鮮明に覚えてい  
た。  
そして4日目に憧れの五能  
線に乗り、この旅の目的地に  
向かった。この日はあいにく  
の雨で土砂降りの中、ブナ自  
然林の遊歩道を歩いて「青池」  
を目指した。悪天候というこ  
ともあり、観光客はほとんど  
いなかった。晴れていれば、  
青いインクのようなどこまで  
も透き通った群青ブルーを見  
ることができたはずの「青池」  
は、写真で見るとは違っ  
たが、雨の滴と波紋、湖に反  
映するブナの木が混ざり合  
い、とても神秘的な『あお』  
を見せてくれた。  
曖昧であるからこそ無限の  
変化を想像させる、手の届く  
ことができない遠い世界につ  
ながっているような、微妙な  
色。濃すぎても淡すぎても違  
う私だけの『あお』が完成し